

# 会 議 録

## 1 会議名

第8回上越市総合計画審議会

## 2 議題

(1) 第6次総合計画(案)について

## 3 開催日時

平成26年9月29日(月)午後1時30分から午後3時25分

## 4 開催場所

上越文化会館4階 大会議室

## 5 傍聴人の数

2人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

- ・委員：濱祐子、荒川俊治、佐藤芳徳、志村喬、得丸定子、菅文男、渡邊好昭、秋山三枝子、市川裕光、浦野憲一、大嶋慶子、荻谷賢一、笹原茂、田中弘邦、吉村久子、岩崎康文、上野弘、上原みゆき、御所窪賢一、松本美鈴
- ・事務局：川上企画政策部長、南企画政策課長、大島副課長、青山係長、石黒係長、内山主任、田中主事

## 8 発言の内容(要旨)

(1) 開会

(2) 挨拶

### 【佐藤会長】

総合計画も完成に近づいてきた。前回審議会から今回までの間、書面での審議をいただいていたが、そこでの意見を踏まえ事務局の方で修正案を作成した。なお、今後は現時点の案について、市民の皆さんから意見をお聴きするパブリックコメントを実施する予定と聞いている。本日は計画全体を通しての意見・指摘をいただきたいと思うのでよろしく願いしたい。

(3) 議事

第6次総合計画(案)について

【事務局（石黒係長）】

資料 1 ～ 3 により説明。

【佐藤会長】

意見等を発言いただきたいと思うが、本日欠席の委員から事前に意見を頂戴していれば事務局から報告願いたい。

【事務局（石黒係長）】

本日欠席の松縄委員より意見をいただいているので報告させていただく。以前に会長からも指摘があった「東京オリンピック・パラリンピック」の記載をしっかりとすよう確認してほしいというものであった。

【渡邊委員】

素案の 8 頁と 9 頁に似通った表があるが、重複しているのではないかと。また、9 頁の図では、将来都市像が総合計画で記載する範囲から外れているが、8 頁の図では範囲に含まれているので、整合性を図ってほしい。

10 頁の「将来都市像設定の考え方」では、「すこやかな暮らしとは、…」にすこやかな暮らしの定義を記載すべきである。市民にとって大事なものは、すこやかな暮らしとはどういうものである。すこやかな暮らしの定義は頁の下の方の囲みに記載されているが、重複してもよいので本文中にも記載すべきである。

また、8 頁の図では重点戦略が基本計画に反映されるようになっているが、素案には記載されていないように感じる。どのように絡ませていくのかが疑問である。

【事務局（石黒係長）】

8 頁と 9 頁の表は作りが似ているが、8 頁の表は章単位でどのようなことが記載されているのか計画の全体構成を示しており、9 頁の表は政策・施策など細かい用語の定義を示している。最終的な冊子の段階で分かりやすくなるよう表現を工夫したい。また、9 頁の図で将来都市像が記載範囲から外れている点については、図を修正したい。

10 頁で定義しているすこやかな暮らしについては、本文中に記載すると字数が多く煩雑になると思い、見やすさを意識してあえて本文から出して記載している。

重点戦略は「暮らし」「産業」「交流」の 3 つを掲げており、10 頁の「重点戦略からのアプローチ」に記載している重点戦略の展開の流れに沿って説明したい。「将来都市像を実現するための鍵となる取組」を定義したのが 3 つの戦略のねらいである。分野横断的アプローチの視点は、各分野の施策に横串を入れる視点として、将

来都市像を実現するために大事なものを定義しており、どう分野横断的にアプローチしていくかの視点を3つの戦略で掲げている。分野横断的アプローチによる施策・事業の重点化については、展開イメージで例示しているように、3つの戦略の考え方に基づいて、全ての施策を横串を入れる視点で点検する。そして頁下の「例」にあるように施策や事業を組み合わせることで戦略を推進する。重点戦略の視点は総合計画だけでなく、予算編成や職員の通常業務をはじめ、市政運営全般において必要となる視点である。

【佐藤会長】

意見を踏まえ可能であればより完成度の高いものとしていただきたい。

【得丸委員】

81頁の「現状と課題」の3項目、「施策の柱」1全ての子どもの学びの保証の1項目、2学校の適正配置・整備の2項目、また80、81頁の「目標」の1項目にある「児童生徒」「児童・生徒」「生徒・児童」の表記を統一してほしい。

69頁の「現状と課題」の4項目にある「再編・改築と、特別な配慮が必要な子」とあるが、「子」は「子ども」と記載してほしい。

84頁の「現状と課題」の1項目「郷土の先人・偉人の功績や”人となり”」とあるが、「”人となり”」の引用符「”」を「“」に修正してほしい。

【佐藤会長】

表記の整合性を図っていただきたい。

【御所窪委員】

71頁の「海上貨物貿易状況」のグラフに記載のある「TEU」の説明を記載すべきである。73頁の「観光客入込数」のグラフには一の位までの非常に細かい数字が記載されているが、ここまで細かなデータを示す必要があるかどうか検討してほしい。

【志村委員】

同頁の目標数値は何万人程度など分かりやすい数値にした方がよいと思う。

【佐藤会長】

細かい数値はデータの説得力を高める効果があるが、市民がそこまでの数値を要求しているかどうかを踏まえて検討していただきたい。

【浦野委員】

22頁の「政策・施策の体系」の「施策の柱」に「直江津港のエネルギー拠点化」

とあり、直江津の港だけが代表的なものとして記載されているように見えるが、LNG受入基地や火力発電所などの埋め立て地の方も市にとっては大事な地区であるので、PRすべき。また、71頁ではメタンハイドレートにしか触れていない。産業に対する基本的な考え方をもう少し記載すべきである。

**【事務局（石黒係長）】**

埋め立て地も港湾の一部であるので表記上は正しいが、71頁の施策の柱1直江津港のエネルギー拠点化の1項目にある「エネルギー港湾」に含めるものとして記載している。写真や図を入れ、よりイメージの湧きやすい記載としたい。

**【佐藤会長】**

可能な限り盛り込めるよう検討してほしい。

**【得丸委員】**

71頁の「海上貨物貿易状況」のグラフの出典「直江津港統計年報」は何年度のデータか。

**【事務局（田中主事）】**

歴年の数値を積み重ねたデータで、現在把握している平成25年度の値までを記載しており、最新のものである。出典が明らかになるような記載をしたいと思う。

**【大嶋委員】**

以前の審議会で、市で今年度から施行された「教育の日」の記載を検討してほしいと要望したが記載されていない。「教育の日」は、子どもだけでなく生涯を通じての教育を考えるもので、地域の活性化や地域づくりにつながるものであることから、PRとして入れていただきたい。「教育の日」ができたという事実だけでも記載してほしい。

**【事務局（青山係長）】**

先にいただいた意見については、事業を主管している教育委員会から「教育の日」を前面に出して教育を推進する取組について確認したが、今年度は制定記念式典などがあるが、次年度以降は特化して何かを行う考えはないという回答を受けて記載していない。もう一度教育委員会に確認し、可能であれば記載したいと思う。

**【佐藤会長】**

前向きに検討してほしい。

**【笹原委員】**

77頁の目標値について、林業については「森林組合等による」で全体的な数値

目標、漁業については「1 漁業経営体当たり」で単体の数値目標が設定されている。漁獲量を維持しても今後経営体数は減少すると見込まれることから、全体的な漁獲量は減少すると思われる。この目標設定で良いのか。大規模化などは考えていないのか。

【事務局（青山係長）】

担当部門と協議した上で設定した数値であり、漁業の深刻な現状は把握している。そのような漁業の現状を十分に考慮して、全体の漁獲量が減っても、操業している方の漁獲量は確保したいという思いから目標値を設定した。

【得丸委員】

素案全体において、表中の文末の読点は不要ではないか。例えば52頁の「目標」の3項目の現状値（時点）、80頁の「目標」の1項目の文末の読点は不要ではないか。

【事務局（石黒係長）】

表の中のルールや用語の使い方等は全体的に整理し、統一したいと思う。

【佐藤会長】

基本的には表の中にあっても文章であれば読点が必要である。文章と文章でないものが混在しているというところから確認していただきたい。

【岩崎委員】

86頁の「目標」の1、2項目にあるえちごトキめき鉄道とほくほく線の乗車人数の現状値、目標値の数値は何を根拠に設定したのか。

【事務局（青山係長）】

ベースはトキめき鉄道とほくほく線の事業者の経営基本計画に基づく目標値である。

【志村委員】

数値について問われた時にどのように説明するのが問題である。86頁の施策の柱1 地域交通の利便性向上の2項目に、「並行在来線やほくほく線の利用促進と鉄道事業者の…」とあるが、「目標」とその他の記載の整合性が取れているかという点に疑問を持たれる部分もある。また、同頁「目標」の3項目の「混乗」という言葉は不要である。87頁の「目標」の1、2項目と本文がどのように関係するのか不明であり、もっと分かりやすい指標にした方が良いと思う。

また、88頁の「目標」の1項目の目標値・現状値は0件であるが、他に適切な

指標があるのではないか。市民感覚としてはもう少しプラス志向の指標とした方が良いと思う。

**【事務局（青山係長）】**

「目標」は、施策の実施効果を表すものという観点で設定している。指摘の目標値は、市の施策の効果により景観が悪い建物を今後も建設させないという目標であるため、目標を0件としても適切と考えているが、担当部局に他の目標について確認したい。

**【佐藤会長】**

目標値が0というのは見た目の上であまり好ましくないので、検討してほしい。

**【得丸委員】**

「心」という字について、88頁は漢字表記で、63頁は平仮名表記である。使い分けに意味があるなら整合性を図り使い分けてほしい。

**【事務局（石黒係長）】**

健康福祉分野では特に「こころ」という表記を利用しているので、健康福祉に関連する施策は「こころ」と平仮名表記にし、その他一般的なものは読みやすさを考慮して「心」と表記し使い分けている。

**【岩崎委員】**

86頁の「目標」の1項目にえちごトキめき鉄道の乗車人数とあるが、現段階ではトキめき鉄道ではないため、記載を修正すべきである。

78頁の「目標」の2項目に、移住希望者からの相談対応件数とあるが、相談件数を目標にするより、実際に移住した数を目標値にした方がよいと思う。

**【事務局（青山係長）】**

86頁に関しては修正させていただく。78頁について、市では移住希望者に住居までを斡旋しているわけではなく、移住に関心のある方の相談対応を業務としている。実際に移住して来られる方は、市を通じたの場合と民間の不動産会社等を通じたの場合があり、市で移住者数を把握するのは困難であることから、目標値は相談対応件数としている。

**【得丸委員】**

86頁にある「デマンドバス」という言葉は、一般的でない。

**【事務局（石黒係長）】**

専門的な言葉については、最終的な冊子の段階では、脚注の表示や巻末の資料編

に用語解説を付けるなど記載を工夫したいと思う。

【佐藤会長】

アルファベットの略語など分かりづらいので脚注をつけるなどしてほしい。

【志村委員】

78頁の「目標」の2項目の移住希望者からの相談対応件数について、現状値(平成25年)の67件から目標値(平成30年)70件、73件(平成34年)と目標値が3件ずつ増えているだけで、市はどのように施策を進めようとしているのかわからない。単に目標数値を引き上げてほしいというのではなく、これが全体の施策とどう絡み、本当に必要な目標値であるのかも検討してほしい。

【事務局(青山係長)】

中山間地域の人口減少対策として、移住相談窓口を整備することは市として必要な取組である。人口減少は全国的なもので、総人口が減少する中で各自治体が取組を強化する状況にあっても、相談数の増加を図り、定住促進につなげていきたいという観点から立てた目標である。

【笹原委員】

54頁の「目標」の2項目の消防団員数について、同頁のグラフでは消防団員数は年々減少している傾向にあるが、目標値は100名程度増加させることとなっており、現実味を帯びた目標値ではないと思う。

【事務局(青山係長)】

目標値は定数である。近年若者の消防団参加が減少し、団員の高齢化も進んでいるが、必要な消防団員の数値を設定している。一方、定数については、今後の状況を踏まえ、見直しを検討していく必要があると思う。

【上原委員】

70頁の「目標」の2項目のメイド・イン上越認証品数は、現状値(平成25年)13品から目標値96品(平成30年)、112品(平成34年)と大幅に増加しているが、同じ基本施策の他項目では目標値が横ばいか現状維持である。目標数値が低いのではないか。

【事務局(青山係長)】

目標値は、市の支援を受けて実施するものの件数となっており、例えば3項目の商店街のイベントは、商店街が独自で行うものは含まれていない。また、4項目の空き店舗の活用件数は現状に即した数値を設定している。

【浦野委員】

53頁の「目標」の1項目下水道の雨水幹線の整備率は、担当課が示している数字なのか。

【事務局（内山主任）】

担当課である下水道建設課で算出した数値である。

【上野委員】

86頁の施策の方針に、「鉄道や航路の利便性の向上」とあるが、鉄道や航路自体の利便性向上なのか、鉄道や航路と他の交通機関との利便性を向上させるのか。

【事務局（石黒係長）】

鉄道や航路自体の利便性を図るという意味合いである。交通機関同士の連携は続きの文章にあるように「地域交通と広域交通の連結を強化」と記載している。

【秋山委員】

49頁の「市内NPO法人数の推移」と「市内NPO法人の活動分野」のグラフについて、市民活動はNPO法人に限らず多様な主体によって行われるものであるが、このグラフを提示すると市民活動イコールNPO法人というイメージを受けるので、別のデータを示してほしい。また、「市内NPO法人の活動分野」は、法人数が重複しているため、提示してもあまり意味のないデータである。

【事務局（石黒係長）】

「市内NPO法人の活動分野」のグラフについて、法人数が重複しているのは承知しているが、様々なジャンルで色々な方々が活動していることを示したいと思い提示した。最終的にはデータは極力最新で分かりやすいものとし、体裁を整えたいと思う。市民活動を行う主体としては、NPO法人以外の団体も念頭に置いている。適切なデータや写真等でそういったニュアンスが出るように調整したい。

【荒川委員】

49頁の施策の柱4 支え合い体制構築の推進について、年金支給額の問題など経済的な課題が、特に中山間地域の高齢者にとっては今後大きな問題となってくると思う。中山間地域では若者が平場に下り、高齢者は山に残るという実態があるが、こういった状況をフォローできる現実に即した考え方はないのか。

【事務局（青山係長）】

支え合い体制の構築について、中山間地域の実態調査を行ったところ、当市の特徴として中山間地域には高齢者の割合が多いが、その親族が近場に住んでいるケー



スが高いという結果が出ている。そのため、平場に住む若者が中山間地域に住む親族を支えることを基本として考え、さらに平場の地域と中山間地域との支え合い、あるいはもっと広い地域で中山間地域の除雪や共同作業、農業などを支え合っていくといった体制を考えている。

**【荒川委員】**

高齢者は子どもや親族、近所の人に頼りたくない、迷惑をかけたくないとの思いがある。そういった高齢者を支えるための施策を市民活動などにいかに取り入れるかが重要であり、人と接する機会を頻繁に持たせるような目標を掲げるべきである。

**【佐藤会長】**

可能であれば施策の柱4 支え合い体制構築の推進と整合性のとれた目標を掲げてほしい。

**【事務局（青山係長）】**

現在集落支援員が中山間地域に入り、実情を聴いた中で必要な支援に取り組んでいる。人との関わりについての目標値は個人に立ち入りすぎるということもあり、市として提示するのは難しいと考える。支援を受ける側が希望する支援を行っていききたいと考えている。

**【松本委員】**

中山間地域に住む方は、できるだけ自分のことは自分でやりたい、人に迷惑をかけたくないという思いは確かに持っているが、だんだん誰かの力を借りなければここに住んでいられないという思いに変わってきている。特に草刈りなどの道普請と除雪が一番の問題である。市の除雪機購入費用の補助や近隣集落の人に除雪を頼むなど支え合いながら生活している。

**【佐藤会長】**

支え合い体制を市として進めるという表現があるとよいと思う。

**【得丸委員】**

49頁の施策の柱4の「支え合い体制構築の推進」では言葉が足りないと感じる。65頁の施策の柱4「見守り体制の強化」と関連すると思うので、「支え合い・見守り体制構築の推進」とすれば市民目線で見るとき施策のイメージが湧きやすい。また、見守りの取組は企業等も行っているため、企業との連携も視野に入れてほしい。

**【事務局（青山係長）】**

65頁の高齢者の見守り体制については、支え合いの一環ではあるが、高齢化が

進む中で特に重要な施策として、49頁の支え合い体制と分けて記載している。なお、65頁施策の柱4の1項目に事業所・関係機関との連携の視点を記載している。49頁の支え合い体制については、高齢者や中山間地域など特定分野に限らず、子育てなど様々な分野に横断的に取り組むものと整理している。

【菅委員】

目標値の設定は難しいと承知しているが、現状維持的なものもあり、施策の柱との整合性が取れていないものもあるように感じる。再度精査していただきたい。

【佐藤会長】

数値的なものは再度見直しを行ってほしい。

【志村委員】

計画案は現状認識をきちんと行った上で非常によくできており、記載されている目標値にならざるを得ないというところもあると思う。しかし、市民の立場で見ると、計画のキャッチフレーズである「すこやかなまち ~人と地域が輝く上越~ を目指して」という視点で確認する必要がある。資料1の(4)【目標の設定について】の1項目に「基本計画に記載する目標は、数値目標だけではなく状態目標も必要である」とあるように、数値が無理な部分は状態目標を設定した方が受け入れられると思う。

【事務局（青山係長）】

資料1(4)【目標の設定について】の補足であるが、この意見は状態目標を基本施策単位ではなく、もう少し大きな範囲で設定すべきという趣旨のものである。計画案では、8つの政策分野ごとにすこやかなまちのイメージを掲げ、状態目標としている。個々の基本施策の目標は、無理に数値目標にしないよう配慮しているが、可能な部分は見直しをかけていきたいと思う。

【佐藤会長】

資料1の(3)に「地方中心都市」を「地方の中心都市」とした方がよいという意見があるが、素案の中には「上越地域の中心都市」という表現もある。厳密に言えば意味が違うので使い分けをしてほしい。「地方」という言葉は「地方」と「首都圏」のように対比的に使う場合や「東京」と「地方」のように同列として使う場合がある。「地域」は上越市も「地域」であり、他に対する「地域」や「北陸地域」などという言い方もある。状態目標は、意見・指摘を受けて検討してほしい。

定刻に近いので審議を終了したいと思うが、本日の審議を踏まえて事務局で軽微

な修正を行い、市長に審議会としての中間報告をさせていただきたいと思う。

**【全委員】**

了解。

4 その他

**【事務局（大島副課長）】**

事務連絡。

(9) 閉会

**【事務局（川上部長）】**

委員の皆さんにおかれては、4月から熱心に議論、審議いただき感謝申し上げます。頂戴した意見を踏まえながら明日佐藤会長から市長に中間報告をしていただく。併せて市民の皆さんの意見を聴く機会も設けながら進めていきたいと思う。まだ課題等もあるが、市民の皆さんの意見を聴いたり審議会に諮りながら完成度を高めていきたい。総合計画は当市が飛躍していくための市政の方向性を示す重要な計画である。引き続き審議を賜りたく思うのでよろしくをお願いしたい。

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画政策係

TEL：025-526-5111（内線 1452）

E-mail：kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。